

3年生の皆さん、明日のご卒業おめでとうございます。この3年間、邇摩高校での生活を味わいつくすことができたでしょうか。皆さんにとって、高校生活は楽しいことばかりではなかったと思います。悩み苦しんだり、人知れず涙したりしたこともあったのではないのでしょうか。その苦しみ落ち込んだときにこそ、友人や家族、先生方の優しさにふれ、支えられ、日々を過ごすことができたのではないかと思います。



さて、人権教育だより『なりすな』も、今回が最終号となりました。3年間、皆さんとともに人権学習をおこないながら、皆さんの感性にふれ、私たち教員も多くの気づきを得させてもらうことができました。特にこの学年は、ものごとを多面的にとらえたり、学んだことをふまえて自分自身の考えを深めたりすることが得意な人が多く、また、「正しいこと」を訴えようとする力を持っている人も多かったので、ホームルーム活動などで書いてもらった感想を事後に読ませてもらうことが楽しみでもありました。

そんな皆さんと、最後に考えてみたい問いです。

差別は一方の正義であるとも考えられるので、無くならないと私は思っています。差別は無くなると思いますか？



…これは、先日の人権講話の際に、ある生徒が寄せてくれた感想のなかにあったものです。読みながら「正義の反対は、もう一つの正義」という言葉が頭に浮かびました。互いの正義と正義がぶつかることで、戦争や紛争が生まれるとも言われます。また、童話『桃太郎』で、“父親”を殺された鬼の子が桃太郎を恨むストーリーなども、インターネット上で紹介されたりしています。鬼やその子にも、正義があると考えられるわけです。

そもそも「差別」とは、本来誰もが生まれながらにして持っている「権利」が、侵害されている状態を言います。ですから、権利が侵害されているのであれば、その状態を解消したり解決したりしなければならないのです。しかし私たちは、人と比較したり、人を妬んだり恨んだり、陥れたりしようとする心理を多かれ少なかれ持っています。だからこそ、そのことに気づき、社会的に・人間的に正しく行動することで、「差別をしない」自分であることを目指さなければならないと思うのです。

かつて貧困や病に苦しむ人々の救済に生涯をささげ、ノーベル平和賞を受賞したマザー＝テレサは、「私たちが平和のためにできることは、まず隣人を愛することだ」と言ったといひます。それからつい先日、わが家の8歳の子が、「友だちや家族はもちろん大切だけど、友だちや家族を大切にするためには、自分がいちばん大切で、自分がいないとできないよ！」と教えてくれました（！）。

3年生の皆さん、どうか身近な人を大切に。そして何より、本当の意味で自分を大切にしてください。この3年間で得た知識と経験をお守りに。これからの皆さんの健康と活躍を祈っています！

●11月 人権学習『話してくれてありがとう』感想



- 🍷 今日の学習を振り返って、昔あった差別が今も根強く残っているんだということに驚きました。私も心のせまい差別意識を持った人間になりたくないと思ったので、きちんと心がけて日々の言動に気をつけたいと思いました。
- 🍷 差別について理解し、自分自身の今までの考え方やこれからについて深く考えることができたと思います。私もし、差別される側だったら…、差別している側だったら…とかたくさん考えました。受け入れられない人もいると思います。私もその中に入ってしまうと思います。だからこそ、授業で学んだこと以上に勉強し、受け入れる努力をしたいと思いました。
- 🍷 幼少期からの学校の授業や親御さんの教育が必要だと思いました。差別は繰り返されていくため、親から子へ、次に生まれてくる子どもにもきちんとした人権教育をすることです。差別されてきた土地が出身だからといって関係はないと思います。まずは自分が、どのような差別があるのか、どのようなことがあったのかを知り、これから生まれてくる子どもたちに、きちんとした教育をしていくことを大切にしたいと思いました。
- 🍷 部落問題や人権についての教育をもっと増やしたり、自分から学び、人権や差別に対して、きちんとした考えを持つことが大切だと思いました。差別を繰り返さないためにも、まず自分から、人権や差別などの問題に興味を持ち、理解を深めることで、偏見や差別は無くなると思います。将来、結婚したり子どもができたりしたら、部落問題や人権・差別などの問題が出てくるかもしれないので、正しい知識をもち、子どもにも伝えることができれば、差別はなくなっていくと思います。そのために勉強しておきたいと思いました。

●2月 人権講話『私が歩んできた道』(講師：中島シゲ子さん) 感想

- 🍷 同和問題についてしっかり考える必要があると思いました。同和地区に住んでいるという理由で、会社に入ることができなかつたり、同和地区の人は同じ同和地区の人と結婚しなければならないと言われていたことを知り、とても重大な問題だということがわかりました。
- 🍷 もう私たちの時代では、「差別を無くそう」「平等にしよう」などの運動や改革などが広まってきていると思います。なので、実際に目撃したり、見たりということはないですが、そんな時代だからこそ、このようにお話を聞き、「自分には関係ない」とは思わず、自分のこととして捉え、理解することが本当に大切なことだと思います。
- 🍷 「心を傷つけても血は出ない」、「傷つけられたら相談する」、とても大切なことだと思いました。「そんなの関係ないよ」この言葉は傷つけていないと思っていました。それに代わる優しい言葉を探してみようと思います。

※皆さんの感想はすべて、講話をしてくださった 中島シゲ子さま(おおだふれあい会館館長)に匿名で送付しました!

*この便りは持ち帰り、家庭等でも「人権」について語り合うきっかけにしてください。3年間読んで下さった皆さんのおかげで発行を続けることができました。ありがとうございました! <令和6年度 人権教育推進スタッフ：森脇>